

事業活動実績報告書

施設名	学校法人関口学園 幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園
教育理念	◎子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、
	人との関わる力、逞しさを育ていく。
	◎遊びを中心に子ども達の主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	野菜の栽培などを中心とした食育に重点を置いた保育
2 実施期間	令和 6年 5月 1日 ～ 令和 6年 12月 17日

3 取組概要	(取組日) 令和 6年 6月 2日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	土を篩に掛けたり、2種類の土を混ぜ、土の冷たさ、やわらかさを感じながら土壌作りを異年齢児で楽しんでいた。そして、水を含んだ土との感触も楽しんだり、手の汚れも友だちと見せ合ったりして楽しんでいた。園の砂場の砂との違いにも気付き感触の違いを喜んでいた。	
	(取組日) 令和 6年 6月 13日 ～ 令和 6年 10月 22日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	100本の稲をじっくりと観察していた。成長してお米が出来る事が不思議だったようである。稲を折らないようにそっと田植えをしていた。田植え体験後は、稲の成長を日々楽しみにし水をあげたり、観察している姿が多かった。令和6年度は酷暑となり稲穂になる直前で枯れてしまったのがとても残念である。農家の方に稲穂を送って頂き、観察したり、1粒ずつ皮を剥いたり、貴重な体験が出来た。	
	(取組日) 令和 6年 5月 8日 ～ 令和 6年 7月 2日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	幼稚園の畑と園庭のプランターに枝豆の苗とトマトの苗を植えました。苗を畑の植える時、根っこの観察や葉の観察をし、どう実がなるのか楽しみにしていた。毎日の水やりをしながら観察をし、小さい枝豆の莢を発見すると周囲に知らせ共に観察していた。また、園の畑にスイカの苗も植え、花が咲いたり、実がなる様子、少しずつ大きくなる様子を観察するのを楽しんだり、触り心地を楽しんでいた。	
	(取組日) 令和 6年 7月 3日 ～ 令和 6年 7月 5日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	立派に枝豆が成長し、収穫をした。収穫した枝豆の莢を子どもたちと一緒に切った。莢を切るのに硬くて苦戦している姿もあった。1本の枝から沢山の枝豆が出来るみんなで協力をして莢を切り、たくさんの枝豆を集めてゆで、食べた。枝豆好きが多く、大好評であった。	

3 取組概要	(取組日) 令和 6年 6月 21日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児がカレーをつくり、全園児に提供した。各クラス毎に4グループに分かれてカレーづくりに挑戦。三角巾・エプロンを着用し、調理器具の使い方や約束をしてから調理開始。玉ねぎ・ジャガイモ・人参の皮むきをした後、食材を切った。各グループ毎に切り終えた野菜を寸胴鍋に入れたり、肉を入れたり、ルーを入れたり、調理段階で色の変化、においの変化などを感じながら出来上がりを年中・年少児と共に待った。園内中にかレーのいい香りが充満し食欲を掻き立てられ、昼食時は、何度もおかわりをする姿が見られた。	
	(取組日) 令和 6年 5月 日 ~ 令和 6年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること キュウリの種を園の畑に撒き栽培した。芽が出る様子や葉の形を観察したり、緑色のキュウリなのに黄色い花が咲くことに驚いていた。花が枯れてから実がなり、赤ちゃんキュウリを見つけ喜んでいたり、成長の早さにも驚いていた。立派なキュウリに成長してからは、全園児が収穫体験が出来るようにクラス毎に順番に収穫し、自宅へ持ち帰ったり、園で浅漬けにしたり、野菜スティックにして食べた。苦手だった子も幼稚園のキュウリは美味しいと食べる姿が見られた。	
	(取組日) 令和 6年 8月 1日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 種用にキュウリをそのまま何本か畑に残し、黄色く大きくなるまで待ってから収穫をした。緑から黄色に色が変わったことに驚き、花と同じ色になる事に気が感心していた。縦長に切ったキュウリの真ん中よりスプーンで種を採り、次年度の栽培を楽しみにしていた。	
	(取組日) 令和 6年 9月 3日 ~ 令和 6年 3月 11日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 日本の文化である日本茶について知る機会を作り、茶器について知らせたり、お茶の淹れ方を実際にみせたりした。茶の香りも楽しみながら話を聞く姿が見られた。毎日、お茶を飲む時間を設け5歳児クラスで飲んだ。初めは薄めても苦いという子がいたが、次第によく飲むようになり、お茶の香りを楽しみながら飲むようになった。	
	(取組日) 令和 6年 9月 3日 ~ 令和 7年 3月 11日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること お茶の茶殻の再利用について話をし、消臭剤づくりを行った。お茶を淹れる際と消臭剤づくり様に煎る時のお茶の香りの違いに気づいていた。煎る作業は、料理をしている時のようで楽しんでいた。フィルターに入れ持ち帰り、家族と相談して、靴にいれたり活用しているようだ。	
	(取組日) 令和 6年 11月 22日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 田植え経験をし、稲を育てた経験からお米が出来るまでの工程を知ることが出来た。提携していた農家より精米したお米が届き年少・年中・年長児でおにぎり作りに挑戦しました。自分で作ったおにぎりは美味しかったようで、いつもより多いご飯の量も完食し、おかわりをする子も多かった。	

3 取組概要	(取組日) 令和 6年 12月 10日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 初体験のみかん狩りを楽しみにしている子が多く、子ども達に一番親しみのある果物を自分達で収穫することに大喜びであった。ミカン農家の方に事前に学年每一房の中に何粒入っているのか教えてもらったり、ミカンの収穫の仕方や美味しいみかんの見分け方などをパネルなどを利用して分かりやすく教えてもらってから収穫を行った。枝をかき分けながら一生懸命に収穫し、お土産のみかんを大切に持ち帰った。翌朝、子ども達から食べた感想をたくさん聞くことが出来た。	
	(取組日) 令和 6年 12月 17日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること お餅が出来るまでの工程や、使用する特殊な道具を知り、より興味が深まったようである。有志の保護者の手も借りて、餅を搗いたり、お土産用の餅づくりを行った。年長児は、エプロンと三角巾を着用してもちつき体験をし、杵の重さに耐えながら搗いていた。年中・年少児は年長や保護者の搗く姿を応援したり、もち米や蒸したもち米、搗きたての餅を実際に見たり、触れたりしながら餅づくりの工程を知ることが出来た。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

効果検証報告書

施設名	学校法人関口学園 幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園
教育理念	◎子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、 人との関わる力、逞しさを育てていく。 ◎遊びを中心に子ども達の主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。
事業の区分(5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現
1 事業名	野菜の栽培などを中心とした食育に重点を置いた保育
2 事業概要	・畑や園庭プランターでスイカ、トマト、キュウリ、枝豆、大根、ジャガイモなどを栽培。観察して食べる。5歳児でカレー作り、餅つきを体験。園行事のでもほりを体験。・日本の文化である日本茶について知る。湯呑・急須などの茶器、茶葉の種類や用途、お茶の入れ方を知り、実際に園で、お茶を飲む時間をつくる。茶殻の再利用を考えたり、茶殻煎り体験をし、煎った茶殻の再利用を行う。(肥料・消臭剤など)・移動果樹園を利用し、姉妹園でみかん狩りを行い、みかんの成長や実のなり方などを観察し、自然の恵みを実感すると共にいろいろな果樹に興味を示し、食への関心を広げていく。
計画時	3 実施体制
	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ----- 取り組みに必要な人員・・・担任・職員・保護者有志。 園児・保護者有志によるカレー作りでは、園庭に寸胴鍋を用意し、食への関心を広げていく。 食育に関する絵本・教材・パネルシアターを購入し、食への興味・関心を深める。 稲作農家と連携し、お米が出来るまでの過程を知る。 収穫した米を白米にする過程を知り、おにぎり作りにも参加する。
事業後	3についての効果・検証
	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 園の畑や、園庭でプランターを利用して栽培を行うことが出来た。観察や収穫体験をし、自分達で気づけたことや初めてのことで自分で出来たという経験から自信へとつながり、様々な場面で積極的な姿が多くなったようである。収穫したキュウリや枝豆は、園児が持ち帰ったり、食した。苦手な野菜でも自分で収穫したという気持ちや自分で調理した経験から食べてみようとしたり、苦手意識を克服している姿もみられた。自分で調理したカレー、そして年長児が調理をしたカレーということもあり、いつもよりよく食べおかわりをしている姿が多かった。農家と連携し、米つくりの過程を知ることで米一粒を作る大変さを知ることが出来た。お茶碗に米粒が残らないようにしようとする姿も見られるようになった。おにぎり作りを通して、年中・年少児も自分で作ったものを食べるという経験をし、食への興味が深まった。
計画時	4 事業のねらい
	・食育を通して健康な身体づくりをする。 ・楽しく食べる事、食への興味、関心を通して食への意欲を育む。 ・食物を育てることなどを通して、生命を尊重し、いただきます・ごちそうさまの精神を学ぶ。 ・食べ物を無駄にしない。大切にすることで食品ロスをなくすなどのSDGsの問題を考えるようになる。 ・食事のマナーを身につける。(食育関連教材を使用。) ・野菜などの栽培を通して、農家の方々の仕事について関心を示したり、感謝の気持ちを持つ。
事業後	4についての効果・検証
	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 健康な身体づくりの為に毎日の食事の大切さを伝えたり、昼食の際に食物の栄養について知らせ、自ら食べれるものが増えたことを喜ぶ姿が多くなり、毎月の身体測定時に成長したことを実感し、更なる食への関心が深まっていると思われる。昼食つくりの過程や栽培や米つくりの過程を知ることで、作って頂いた方へと食べ物への感謝の気持ちが昼食つくりの過程や栽培や米つくりの過程を知ることで、作って頂いた方へと食べ物への感謝の気持ちが芽生えた。また、食事の際の挨拶も感謝をしながら行うようになった。毎日の昼食の際、ご飯や汁物、おかず等の配膳時の位置を意識出来るように関わったり、箸やフォーク、スプーンの置く位置や向き持ち方なども意識出来るように関わり、食事のマナーと共に備わった。
	5 取組の内容
	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ----- ・畑やプランターで季節ごとの野菜を栽培をする。 ・野菜の育ちを観察し、収穫した野菜に触れ、野菜の特徴を感じたり、食べる。 ・5歳児がカレーづくりに挑戦し、自ら食したり、他の園児にも提供。 ・食育に関する絵本・教材・パネルシアターを使用し、食への興味・関心を深める。 ・移動果樹園では、果樹園の方のお話を聞く。みかんの樹木や実のなり方を観察したり、みかん狩りを体験し とれたてを味わう。 ・日本の伝統文化である餅つきに参加し、餅が出来るまでの工程や道具類などを知る。 ・米農家作り農家と連携し、お米の生育過程を観察。おにぎり作りを行う。

計画時	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 登園時や帰園時、畑の様子やプランターの栽培中の野菜の様子を観察している姿が多く、食物に対しての興味関心が深まった。園で育てた野菜を実際に収穫する体験を通して、とれたての新鮮野菜の特徴を感じたり、自分達で収穫できたことに喜んでいて。日本の伝統文化にふれる貴重な経験となった。餅つきに使用する道具類を知ることが出来たり、餅つくりの工程を知ることが出来た。また、年長児はもちつき体験をし、年中・年少児は、年長児になったら経験できることに期待しながら見学をしていた。米つくりの過程を知ることが出来た事で米の大切さを感じたようである。更におにぎり作りやカレー作りを経験したことで、自分達で調理したものを食べる嬉しさや、人に贈うことで感想や感謝を伝えてもらえる経験をし、更に食への興味や関心が広がったようである。
	6 環境構成	・栽培に必要な道具類、耕運機、野菜の種や苗、培養土、肥料、プランターなどを用意。 ・園児たちが身近に 水やりなど、栽培物の世話が出来る様にじょうろや子ども用のシャベル等の用意と道具コーナー作り。 ・カレー作りに必要な食材、燃料、調理器具などの用意。 ・もちつきに必要なもち米、もちとり粉、道具類、燃料などの用意。 ・日本茶を日常的に飲むことが出来るように ポット、急須、湯呑、茶葉、煎り鍋、燃料などの用意。 ・おにぎりがつくれるようにサランラップ・塩・のりを用意する。 ・食育関連の絵本、パネル、紙芝居などの視覚教材。
事業後	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 子ども達が栽培に対して興味を持てるよう、園児の目に留まりやすい場所にプランターを設置したり、じょうろなどの道具も使いやすい場所へ設置をした。自ら進んで水やりを行う姿が見られた。耕運機を使用して畑を耕し、整備を行った。畑全体に様々な野菜を栽培することが出来た。カレーづくり・餅つきは前日に職員で準備と設置したことで、翌日登園してきた子ども達の興味を引き道具について質問をしたり、参加に対する姿勢も積極的だった。日本茶は、茶器などを使用しやすい場所に設置したことで毎日のおちゃの時間を楽しむことができた。おにぎり作りでは、試行を重ねサランラップではなく食品用の袋で行った。とても扱いやすく年少児も作りやすかった。
	7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・食の大切さを知り、食に対する興味や関心を持ち、食べる意欲が育つ。 ・野菜の栽培、いもほり、カレー作りを通し食べ物を大切に作る気持ちが育ち、食品ロスなどを出さない意識が芽生える。 ・様々な野菜の成長に興味を持ち、他の野菜について調べたり、育ててみようとする気持ちが芽生える。 ・様々な経験を通じて、生産者や料理の作り手への感謝の気持ちが育まれる。 ・食事の仕方、マナーなどを知り、正しい生活習慣を身に付けられるようにする。 ・自分達でカレーづくり・おにぎりづくり・もちつきの経験を通して調理することに興味を示す。 ・もちつきを通して食文化にふれ、興味・関心を持つ。
事業後	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 栽培等を通して食物を育てることの大変さや自然の恵みのありがたさを知り、食の大切さ、食に対する興味・関心、自然の恵みへの感謝の気持ちが深まった。また食べることへの意欲や食品を無駄にしない意識も芽生えた。昼食をつくる工程やみかん狩りの経験を通して作り手や生産者の方々への感謝の気持ちも育まれた。日本特有の食文化にも興味を示し、食事のマナーなども身についた。
	8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・畑や園庭での野菜の栽培を通して食育活動を通して、食べ物を大切に作る気持ちが育まれたり、作り手への感謝の気持ちを育むことが出来た。 ・畑での栽培や土の中で育てる野菜の栽培や収穫を通し、身近に土や自然に触れる貴重な体験の機会を得ることが出来た。 ・プランターで栽培をする事で、日々の栽培物の変化や成長に気付き、花が咲く事、実のなり方など適時に観察・収穫が出来た。 ・自園給食で使用する食材の量・準備、調理時間・調理の仕方などの話を給食室の方々に教えてもらい、日頃食べている給食のありがたさ、大切さなどを知り、食品ロスを減らす意識も芽生え、SDGsにもつながることが出来たように思う。 ・日本の文化である日本茶について知ること、更に日本の文化・風習について興味を示したり、他の国の文化にも興味・関心を示すようになった。